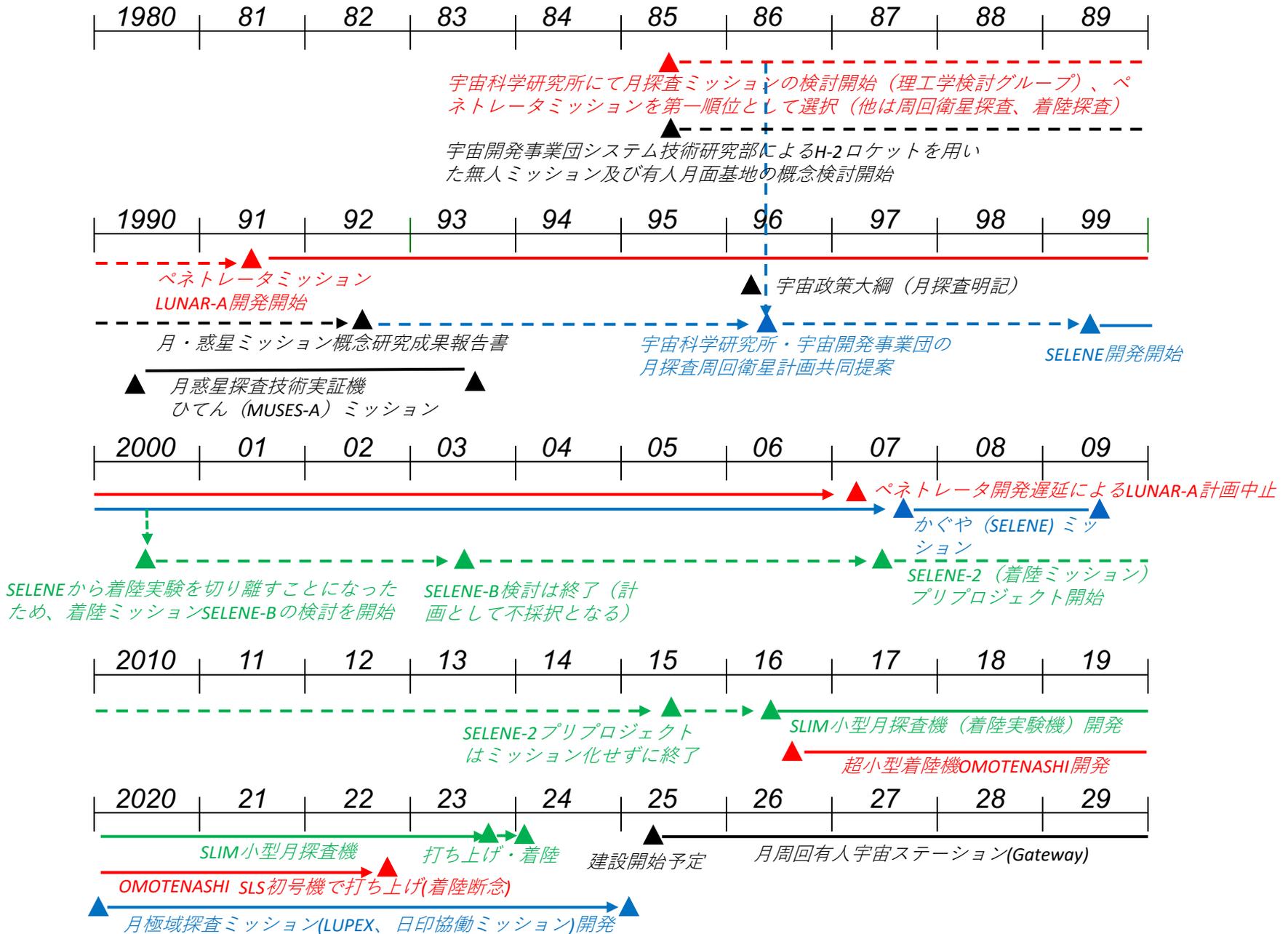


# 我が国の月探査の現状

1. 国の機関による月探査プロジェクトの経緯  
(黎明期から将来まで)
2. 現在の月探査・月開発のモチベーション  
(動機)と主なプレイヤー(推進者)

2024年4月

# 国の機関による月探査計画の経緯(黎明期から将来まで)



# 現在の月探査・月開発のモチベーション(動機)と 主なプレイヤー(推進者)

## 月は地球に最も近い(他天体に比べてアクセスしやすい)大きな天体

- ・月の利用(商業的、政治的、社会的利用)：現段階ではメリットは未知だが、他者(他国)に遅れることなく、フロンティアとしての月の利用価値を探査により見極めたい(国策、産業界)

[JAXA宇宙探査イノベーションハブ](#) [JAXA国際宇宙探査センター](#) [月面基地\(清水建設\)](#)

[月面都市構想\(大林組\)](#) [月惑星協会](#) [ムーンビレッジ研究会](#)

- ・研究者の興味：すでに多くのことがわかってきたが、さらに深く知りたいという研究者の飽くなき興味(惑星科学者)。月面から初めて可能となる新しい天文観測への期待(天文学者)、火星などの月以遠の天体の探査のための前進基地、訓練基地としての魅力(宇宙探査関係者)

[月惑星探査の来る10年\(惑星科学会\)](#) [JAXA/ISAS固体惑星グループ](#) [国立天文台月惑星探査プロジェクト](#)

- ・起業のターゲット：月にビジネスチャンスありとすでに行動を起こしているベンチャー企業

[月面開発ispace](#) [月面探査車ダイヤモンド](#)

- ・新天地としての観光：新しい景観を見たい、訪問したい、新しい環境を経験したい(一般国民)

[クラブツーリズムの月旅行企画](#)